『知的障害のある子どもたちに向けたMM教育』

【名古屋大学大学院環境学研究科　研究員　大野悠貴】

青森県弘前市を拠点とする弘南バス株式会社では、2016年度より小学校等でMM教育の出前授業を展開しており、私は弘南バス在社時代から「バスぷら博士」に扮して、授業内容の企画と実践を行っています。その中で、知的障害のある子どもたちが通う特別支援学校で実施する機会を得ました。

全国で展開されているMM教育は小学校に通う子どもたちを対象とした事例がほとんどであるため、特別支援学校の先生方とともに、子どもたちの特性に合わせた授業内容の検討と教材開発を行いました。普段の授業の進め方や使用している教材を踏まえて、バスの利用方法やマナーを学習する紙芝居の作成のほか、お金の数え方、時計の見方、高等部から始まる職業訓練を見据えたお仕事学習といった普段の授業と関連付けたプログラムも開発し、実践を重ねてきました。

障害があると聞くと特別な何かが必要で、MM 教育実施のハードルが高いように思われるかもしれません。しかし、授業実践を重ねて子どもたちと接する中で、そうではないことに気づかされました。もちろん、子どもたち個々の知的障害の状態や発達の段階を事前に把握し、それらを考慮して授業の進め方や問いかけの仕方などをカスタマイズする必要はありますが、それは小学校等で実施するときも同じだと思います。同じ学年でも、学校やクラスによって子どもたちの特徴は異なるので、事前に先生方と相談をしながら、子どもたちの特徴を踏まえた授業内容を考えてきました。MM は「人のココロを動かす」取り組みであり、「丁寧さ」が求められるものですから、MM教育もまた、子どもたちの特徴を踏まえた丁寧な実践が求められていると思います。

知的障害のある子どもたちに向けたMM教育の実践は、彼らが将来の自立を図るための必要な経験を養い、介助者の送迎に頼ることが多い彼らのモビリティの選択肢を豊かにすることにもつながります。4年目を迎えた今、授業内容の改善やプログラムの充実を図りながら、今後も継続して実施していきます。